

## レビ記23章33-43節 「収穫祭に見る実」

### 1A 収穫にある神の御心

#### 1B 三大祭り

#### 2B 荒野の旅との関係

### 2A 神のいのち

#### 1B 御霊の初穂

#### 2B 聖霊の実

#### 3B 復活の初穂

### 3A 神の刈り込み

#### 1B 良い倉と燃える炉

#### 2B 悔い改めと祝い

### 4A 実を結ばせる者

#### 1B 自己吟味

#### 2B イエスに留まる

#### 3B 聖霊の満たし

## 本文

レビ記 23 章を開いてください、今朝の箇所は 23 章 33-43 節までを読みます。(本文読む)

### 1A 収穫にある神の御心

#### 1B 三大祭り

私たちが今、読んだところは、実は先々週の土曜日、10 月 29 日にユダヤ人がお祝いしたものです。仮庵の祭り「スコット」というものです。これは収穫祭とも言うことができ、年に三度、イスラエル人の男たちが、主の前に出てこなければいけないものとして神さまから命じられているものです。「出 23:14-17 年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたとおり、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければならない。それは、その月にあなたがエジプトを出たからである。何も持たずにわたしの前に出てはならない。また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂を献げる刈り入れの祭りと、年の終わりに、あなたの勤労の実を畑から取り入れるときの収穫祭を行わなければならない。年に三度、男子はみな、あなたの主、【主】の前に出なければならない。」

イスラエルの人たちが、この命令を主から受けた時は、シナイの荒野にいました。山の麓にイスラエルが宿営している時に、モーセによって律法を受けていました。けれども、カナン人の地に入ってから農耕を行って、それで収穫が与えられたら、その収穫に合わせて主にお捧げする祭りに

なります。三月終わりから四月初めにかけて、大麦の収穫が始まります。それで、過越の祭りと共に、種無しパンの祝いが七日間あり、また過越の祭りの三日目に初穂の祭りがあります。そうです、イエス様が死なれたのが過越の祭りの日で、その三日目によみがえられましたが、その時に初穂の祭りです。それから、五十日を数えた初夏の時、小麦の収穫が始まります。その時は五旬節を終わって、その初穂を主に捧げます。そして秋の祭りに入ります。ラッパを吹き鳴らす日があり、贖罪日があり、そしてこの仮庵の祭りをするのです。

ですから、合計七つの祭りがありますが、その中で、過越の祭り、五旬節、そして仮庵の祭りが収穫にちなんで行われ、それで、今読んだところが仮庵の祭りです。「34 「イスラエルの子らに告げよ。この第七の月の十五日には、七日間にわたる【主】の仮庵の祭りが始まる。35 最初の日には、聖なる会合を開く。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。36 七日間、あなたがたは食物のささげ物を【主】に献げなければならない。八日目も、あなたがたは聖なる会合を開かななければならない。あなたがたは食物のささげ物を【主】に献げる。これはきよめの集会であり、いかなる労働もしてはならない。」とあります。この七日の間に、秋の収穫を主にお捧げするのです。

思えば、この時期は収穫ですね。私たちの家では妻が柿が好きなので、ネットで訳アリということで、安くなっている柿ひと箱を予約注文したら、一週間ほど前でしょうか届きまして、毎日のように食べています。そして木曜日には、ありがたいことに仙台の実家から米袋もいただきました。アメリカでは、もっと後ですが収穫感謝祭をお祝いしますね。韓国の教会でも、説教壇の前に作物を並べて、収穫祭をお祝いします。こういった収穫のことを考えますと、聖書では、聖霊の実という言葉がありますね。主ご自身が私たちを実を結ぶ者として選ばれて、そしてその収穫をしたいと願われているということです。

## 2B 荒野の旅との関係

興味深いことに、これら三つの祭りは、エジプトから出て荒野の旅をしていることを記念するものともなっています。過越の祭りにおいては、まさにエジプトからイスラエルの民を神が出て行かせた日を記念しています。そして、五旬節には、日付は若干合っていませんが、ユダヤ教徒たちはシナイ山で主が律法を与えられた日として記念しています。

そして仮庵の祭りについてですが、本文をもう一度読んでみましょう、39-43 節です、「39 特に、あなたがたがその土地の収穫をし終える第七の月の十五日には、七日間にわたる【主】の祭りを祝わなければならない。最初の日は全き休みの日であり、八日目も全き休みの日である。40 最初の日には、あなたがたは自分たちのために、美しい木の実、なつめ椰子の葉と茂った木の枝、また川辺の柳を取り、七日間、あなたがたの神、【主】の前で喜び楽しむ。41 年に七日間、【主】の祭りとしてこれを祝う。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟であり、第七の月に祝わなければならない。42 あなたがたは七日間、仮庵に住まなければならない。イスラエルで生まれた者

はみな仮庵に住まなければならない。43 これは、あなたがたの後の世代が、わたしがエジプトの地からイスラエルの子らを導き出したとき、彼らを仮庵に住まわせたことを知るためである。わたしはあなたがたの神、【主】である。」

このように、仮庵を造ります。スコットというヘブル語は仮庵のことです。そこに七日間、住みます。それは何を意味しているかという、荒野における天幕生活のことです。イスラエルの民が、子どもたちに語り聞かせるために、このようなことをします。「お父さん、ああ、屋根の隙間から、お月様が見える！」と言ったら、お父さんは、「私たちの先祖も、同じお月様を荒野で見たんだよ。」という話をして、荒野の旅を追体験するのです。そして無事に神が約束の地に連れ上ってくださったことをお祝いします。

ですから、とても不思議なことを神は行われています。出エジプトからシナイ山、そして約束の地までの荒野の旅を思い起こさせながら、同時に、カナンの地に入ってから収穫祭を行わせているのです。収穫物を捧げさせながら、荒野を思い起こさせるということは一体何なのでしょう？ そうです、主は、収穫があった時に、荒野の旅を思い起こさせて、それで主を忘れることがないため、救われたことを感謝することができるようにするため、わざとそのようにさせたのです(申命 8: 11-17)。もし豊かになれば、自分の力でこの富を築き上げたと高ぶることが容易になります。ですから、荒野に居た時の苛酷さを思い起こし、それで今の富を思う時に、それを与えられたのは主ご自身であり、自分自身ではないことを知ります。

私たちの救いが、まさにそうですね。エペソ 2 章に書いてあるのは、罪の中に死んでいた私たちであって、神の怒りを受けなければいけないのに、神がその深い愛のゆえに、憐れみによって私たちがキリストと共に生かしてくださいました。そしてパウロも、自分が罪人であった時に、こう告白しています。「I テモ 1:13-14 私は以前には、神を冒す者、迫害する者、暴力をふるう者でした。しかし、信じていないときに知らないでしたことだったので、あわれみを受けました。私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに満ちあふれました。」自分がどこから来たかを思い出します。そして、今、自分が受けているものは本当に受けているもので、受けていないものはないということです。そうやって、神に自分の受けているものをお捧げし、栄光を帰するのです。

## 2A 神のいのち

収穫は、何を象徴しているのでしょうか？ 命の現れですね。命というのは、自分がいくらどうやってもどうしようもないものです。ただそれを与えてくださり、また成長させてくださる方にゆだねるしかありません。ですから、主と私たちとの命の関係を表すのに、適切なのです。

## 1B 御霊の初穂

私たちが、神の子供になること。神から生まれること、御霊によって生まれることがありますね。

ローマ人への手紙 8 章には、それを「御霊の初穂」と表現しています。「8:23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだが増え、御霊の働きの収穫が後にあるわけです。それは、神の国が地上に到来してからです。イエス様が再び戻って来られて、神の国を立てられる時に、全地は御霊に満ちます。私たちが御霊によって生まれるとは、そういった後に来る収穫の前置きとしての働きがあるのです。私たちが受けている御霊による喜びは、後に来るものの前味であるのです。

## 2B 聖霊の実

そして、イエス様を信じて聖霊が与えられ、私たちがこの修養会で学んでいる内容に入ります。聖霊によって、実を結ぶということです。「ガラ 5:22-23 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。」実というのは、実は愛しかありません。御霊の実のところが単数になっているからです。そして喜び以下は、愛がどのように現れるのか、その状態や姿、性質を表しています。これが、いのちであることをお見出ししてください。つまり、私たちが自分で自分の中にあるものを絞り出して作り出せるものではない、ということがわかりますね。

## 3B 復活の初穂

そして、イエス様は復活の初穂と呼ばれました。「I コリ 15:20-21 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。」イエス様が復活の初穂であるならば、イエスにつながっている者も同じように復活するのです。ここでの収穫は、イエスを信じる者たちが一斉に復活することです。

## 3A 神の刈り込み

こうやって、収穫というところには、神のいのちの関係があることがわかりました。そして収穫ということ、刈り取りということそのものには、「神の報い」という意味合いがあります。これまで、私たちが主であって結んできた実を、神が受け取り、それをご自分のものとする時です。それが、終わりの日です。

## 1B 良い倉と燃える炉

毒麦のたとえを思い出してください。畑に敵が毒麦の種を蒔き、それでしもべたちが「引き抜きましようか」と尋ねたところ、主人は、「良い麦も抜き取るかもしれない、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。」と言われましたね。そして、毒麦は焼くために束にして、よい麦のほうは集めて倉に入れます。これが、このような説き明かしでした。「マタ 13:40-43 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。人の子は御使いたちを遣わします。

彼らは、すべてのつまずきと、不法を行う者たちを御国から取り集めて、火の燃える炉の中に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。」主が刈り取りを行われます。ですから、私たちの生活というのは、主に対してどのように実を結ばせているのか？というのが、全てになるわけです。愛の実をどこまで結ばせているのか？であります。

## 2B 悔い改めと祝い

そこで私たちは、吟味が必要ですね。ユダヤ人の秋の祭りには、仮庵の祭りの手前に、ラッパを吹き鳴らす日と、贖罪日があることとお話しました。それは、神のラッパによって民が集められて、そして贖罪日に、主の前に出て身を戒めます。罪の悔い改めをするのです。罪を悲しみ、そして神の御霊によって清めていただきます。それから喜びの日である仮庵の祭りが来るのです。終わりの日に、イエス様が戻られる時に、ユダヤ人にも悔い改めが起こり、そして全世界で嘆きが起こることが預言されています。けれどもゼカリヤ 14 章には、神の国で仮庵の祭りがお祝いされることが預言されています。悔い改めによって、主に清めていただき、それで主に対して結んだ実を捧げることができるのです。

## 4A 実を結ばせる者

イエス様は言われました、「ヨハ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」実を結ぶこと、それが残ることが主の御心です。私たちは、そのために何をしなければならぬのでしょうか？

## 1B 自己吟味

一つに、自己吟味です。主は多くの実を結ばせるために、刈り込みをなさいます。「ヨハ 15:2 わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。」刈り込み、あるいは御言葉による清めによって、私たちはもっと多くの実を結ばせることができます。ですから、主の来られる前に自分自身で裁く、自分を吟味することはとても大切です。「I コリ 11:28 だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。」

## 2B イエスに留まる

第二、「イエス様に留まる」ことですね。「ヨハ 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」イエス様につながることです。イエス様を見つめて、この方から離れず、いつもいっしょにいることです。そしてイエス様の言葉を自分

に宿らせる。そうやっていると、主が多くの実を結ばせてくださいます。その反対に、イエス様から離れては、どんなことをやっても無駄に終わります。何もすることはできないと言われていましたね。

### 3B 聖霊の満たし

そして、第三に、聖霊に導かれることです。先ほども読みましたが、ガラテヤ書 5 章です。「ガラ 5:22-23 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。」聖霊に満たされましょう、主が一人一人の心の中で、これまで起こったことのないような新しい働きを行ってくださいますように。深いところに触れられて、それで神の命令に従うことができるようになりますように。神のアガペの愛が、自分の心に注がれて、その中で情熱をもって動くことができますように。そして主に栄光が与えられますように。これの実を主にお捧げします。